

デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会 小規模中継局等のブロードバンド等による代替に関する作業チーム（第17回） 議事要旨

1. 日時

令和6年1月29日（月）17時00分～18時27分

2. 場所

総務省内会議室及びWEB

3. 出席者

(1) 構成員

伊東主査、石塚構成員、市川構成員、小川構成員、落合構成員、京屋構成員、クロサカ構成員、齋藤構成員、高木構成員、高田仁構成員、高田光浩構成員、滝川構成員、平林構成員、丸田構成員、三友構成員、森川構成員

(2) オブザーバ

（一社）電子情報技術産業協会（岡村オブザーバ）

(3) 総務省

山崎大臣官房審議官、飯倉情報流通行政局放送政策課長、佐伯同局地上放送課長、岡井同局衛星・地域放送課長、飯村同局情報通信作品振興課長、細野同局放送政策課外資規制審査官、金子同局地域放送推進室長、西村同局放送技術課技術企画官、平野同局衛星・地域放送課技術企画官

(4) 実証事業請負事業者

株式会社情報通信総合研究所 水野 主任研究員

4. 議事要旨

(1) 実証事業の一部調査結果の速報（前半）

- ・株式会社情報通信総合研究所から、資料17-1-1に基づき、説明が行われた。説明のうち、調査結果に係る留意事項は以下のとおり。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

今回の全国調査の速報は、フィールド調査ではアンケートのサンプル数が限られるという課題がございましたので、一般国民を対象として、1万程度のサンプルを採り実施した調査結果を御報告するもの

です。

実証事業の実施計画の御承認をいただいた際に、構成員の先生から、全国調査のサンプル数がトゥーマッチではないかと御指摘を受けましたので、ある程度適正なサンプル数に絞ることとし、設問を少し増やす等の対応を取りました。

今回の調査結果は少々誤解を生む可能性がございますので、8ページについて補足説明をさせていただきます。調査では、各世代を20代以下、30代、40代、50代、60代、70代以上という6つの層に分けて、各1,600のサンプルを採ったのですが、このサンプルは無作為に抽出したものではありません。①テレビをよく見ているのか（テレビ高視聴）、②見ていないのか（テレビ低視聴）、③ネット動画をよく見ているのか（ネット動画高視聴）、④見ていないのか（ネット動画低視聴）という4象限で、400ずつのサンプルを採っております。つまり、今回の調査結果は、例えば、「日本全国の30代」の代表性を示す調査結果にはならない、ということです。30代の中でも、テレビをよく見ている方と見ていない方が半数ずついらっしゃいます。また、インターネット調査ですので、インターネットを使っている方がサンプルになっていますが、その中でも、インターネット動画をよく見ている方、見ていない方の数も半数ずついらっしゃるわけです。よって、本調査結果を、〇代の日本人の放送の将来像の捉え方だと捉えてしまうと、それは誤りになってしまいます。

今後、これらのサンプルは、「〇代の方で、テレビはよく見ているがネット動画は見えていない方」の実相はある程度把握することができますので、フィールド調査の被験者の属性、そのエリアではどういった方が多いのかというデータとの複合相関を見ることで、正しくフィールド調査の結果を捉えていく目的にも活用したいと思っております。

- ・説明後、質疑応答を行った。構成員等からの発言は、以下のとおり。

【三友構成員】

大変詳細な結果をお示しいただきました。確認の意味で質問させていただきます。28ページに、「インターネット利用あり」と「インターネット利用なし」の2つのグラフがあるのですが、「インターネット利用なし」とは、どういった意味なのでしょう。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

こちらは、費用負担の水準について伺ったものです。インターネットと記載していますが、実際は固定ブロードバンドの利用をしている方か、していない方かということです。

【三友構成員】

今回の調査はインターネットによる調査ですよね。ですので、この「インターネット利用なし」というグループは、一体どこから出てきたのかが分からなかったため、確認しています。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

今回、資料の中では属性を細かくお示ししていないのですが、スマートフォンで回答されている方もいらっしゃいまして、御自宅のブロードバンド、インターネット回線の有無が分からない方も一定程度いらっしゃいました。御自宅にインターネット環境が確実にあるとお答えいただいた方と、スマートフォンから回答しており、御自宅にブロードバンド環境がない、あるいは分からないと回答された方の2つに分けた上で、設問に回答いただいた結果でございます。

【三友構成員】

それであれば、そのように記載していただくと誤解がないと思います。

もう1点、8ページに関して、サンプルを4象限で400ずつ割っているのですが、このテレビ高視聴と低視聴、ネット動画高視聴と低視聴の高低の基準は何なのでしょう。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

視聴時間が一日3時間を超えているか、超えていないかにより、高低を分けています。

【三友構成員】

分かりました。基準が分からなかったものですから、確認させていただきました。

【伊東主査】

今御質問のあった高視聴、低視聴という視聴時間の長さについてですが、以前ご説明いただいた際には、ネット動画を視聴する場合とテレビを視聴する場合とで、高視聴と低視聴のスレッシュホルドが違うというお話をされていたように思うのですが、今回は両方で統一して3時間をスレッシュホルドにされたのでしょうか。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

今回の資料中には実際の調査票を載せておらず、今の手元の環境では確認ができませんので、改めて確認し、次回の作業チームの中で御回答させていただきたいと思います。中途半端な回答になってしま

い、申し訳ございません。

【伊東主査】

メールでお伝えいただいても結構ですので、よろしくお願いします。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

承知しました。

【伊東主査】

以前、私が尋ねた際には、ほかの調査で使われている常識的な数字があり、それを踏襲してネット動画とテレビとでスレッシュホールドが異なっているというお話をされていた記憶がございます。私も自信はないのですが、その辺り実際はどうされたのか、ご確認のほど、よろしくお願いいたします。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

承知しました。

→その後、情報通信総合研究所より、テレビ視聴の高低は視聴時間が一日3時間、ネット動画の高低は視聴時間が一日1時間をそれぞれ基準として分けている、との回答あり。

【伊東主査】

13ページの右側の図に関して、私の常識からするとピンとこないのですが、70代以上の4分の1以上の方が「ながら視聴」をされていると読めます。これについて本当ですかというのも実に妙な聞き方なのですが、この結果についてどのようにお考えでしょうか。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

本当ですかということに関して、本当かそうではないかというお答えをするのは非常に難しいのですが、少し補足をさせていただきますと、調査の際には、「ながら視聴」に関しては、詳細に説明を行っております。「ながら視聴」とは、「SNSをしながら」であったり、「チャットをしながら」というものと説明した上で御回答いただいています。ですので、この調査結果には、例えば、「料理をしながら」といった誤った認識での回答は含まれているものではありませんので、その点は補足をさせていただきます。

今回、インターネットを御利用の方で、スマートフォンを利用して御回答いただいた方も一定数いらっしゃいますので、「ながら視聴」をされている高齢層の方も一定数いらっしゃったのだと受け止めて

おります。

【伊東主査】

ありがとうございました。私が世の中の流れに乗り遅れているのかもしれないのですが、ネットで動画を視聴することに関しては、韓国ドラマ等々、年齢が上がっても興味をお持ちになることはあるだろうと思っています。その一方で、70代以上の方の4分の1以上が、SNSを使いながら「ながら視聴」をされているというのは、私にはどうもピンとこなかったのです。今おっしゃったように、「ながら視聴」とは、掃除をしながらとか、料理をしながらとか、そういったものではないという点は明確にした上で回答いただいているということですね。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

はい。

【伊東主査】

分かりました。高齢層の方でも、「ながら視聴」をするような進んだ方が沢山おいでになるのだなと思いました。ありがとうございます。

【伊東主査】

12ページの左側の図では、番組ジャンルの凡例が8種類示してありますが、グラフの中では10種類の色が使われています。下の2つの色は、パーセンテージは低いのですが、何を表しているのでしょうか。また、これと同じ状況が、22ページの図でもあるようでして、こちらの場合は下の3つの色が何を示しているのでしょうか。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

申し訳ありません。確かに抜けておりました、表示の凡例の枠に限られる中で削れてしまったようです。改めて皆様に正しくお伝えするようにいたします。

【伊東主査】

22ページも含めて、見直していただければと思います。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

失礼いたしました。

【伊東主査】

26ページの離れた地域の放送視聴に関してですが、回答者の居住地との関係を分析することは可能でしょうか。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

回答者の居住地は、都道府県レベルで情報を取得していますので、例えば、首都圏や関西圏等の複合エリアで御覧になられている方と、そうではなく、1つの県で、その地域の放送局のみしか御覧にならない方との相関性については、分析をすることが可能です。

【伊東主査】

多い地域では民放が6局、少ない地域になると2~3局のところもあると思いますので、地域によって回答に違いが出るのかどうか、どの程度のサンプルが集まっているのかにもよると思うのですが、是非放送局の数との関係も分析いただけると良いのかなと思いました。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

承知しました。今後、更に細かく分析をしていき、4象限のセグメントごとの特徴も捉まえていきたいと思しますので、今御指摘いただいたところも併せて確認したいと思します。

(1) 実証事業の一部調査結果の速報（後半）

- ・株式会社情報通信総合研究所から、資料17-1-2に基づき、説明が行われた。
- ・説明後、質疑応答を行った。構成員等からの発言は、以下のとおり。

【高田（光）構成員】

ケーブルテレビによる代替に関しましての御報告、どうもありがとうございました。今回参加したケーブルテレビ事業者からは、本実証事業を受けて、本格的な導入の検討であったり、周辺の共聴組合からお問合せをいただいていると聞いております。本実証を通じて、ケーブルテレビ事業者としては、自治体様や放送事業者様と連携した、地域住民の皆様への丁寧な御説明の必要性を大変感じております。

また、対象地域は、更なる人口減少であったり、事業としては不採算となる場合が想定されます。切

替えに際して、共聴組合における老朽化した設備の撤去費用の課題であったり、新たなインフラ整備費用等に関して放送事業者様と御相談させていただき、国からの御支援なども賜りながら、円滑に代替を進めていければと考えております。

【落合構成員】

非常に充実した御調査をいただいております、大変参考になりました。ローカル5Gに関しては、かなり評価が高いように感じられました。うまく整備できる場所においては、有効性が一定程度見えてきた部分があるかと思いますが、実際、どの程度の範囲でローカル5Gを対象地域に導入できるものなのかを把握し、どの程度利用できる手段なのかを理解していくことが必要かと思いましたが、もしお分かりになるようでしたら、御説明いただけるとありがたいです。

【事務局（平野技術企画官）】

今回、ローカル5Gに関する調査をさせていただきましたが、実際の事業はこれからということで、ケーブル事業者様の判断によるところが大きいと考えています。技術的には、今回、ローカル5Gのサブ6帯と呼ばれている帯域を使っておりますので、距離としては、今回は30～40メートルしか使っていないのですが、数百メートルまで飛ぶこともあります。そういった範囲を想定しながら、各事業者様の判断に委ねていくものと考えています。

【落合構成員】

分かりました。ありがとうございます。

【伊東主査】

ケーブルテレビでの巻取り、あるいはブロードバンド代替の場合は、どこまで光ファイバ、あるいはケーブルテレビのネットワークが敷設されているのかがポイントになってくるわけですが、ローカル5Gの場合は、基地局まで回線を持っていけば、あとは無線で飛ばせるということですので、そういった意味では使いやすい部分もあるのかなと思います。

(2) 今後の実証事業の予定

- ・株式会社情報通信総合研究所から、資料17-2に基づき、説明が行われた。
- ・説明後、質疑応答を行った。構成員等からの発言は、以下のとおり。

【伊東主査】

今後の進め方に関しまして、6ページでは、最終報告に向けて、「各事業者との意見交換」や「対応策の考察」等、かなり重たいと思われる作業を実施することになっております。一方、3ページのスケジュールを見ますと、そういった作業を2月末からの約1か月余りで実施する予定とのことですが、どのような手順で進めていかれるのか、具体的な実施計画は立っているのでしょうか。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

おっしゃるとおり、かなりスケジュールが押しております。そんな中で、今年度の実証事業のアウトプットを出していく予定でございまして、弊社と一緒に連携して実証事業を進めている株式会社企業や、主に検証プラットフォームの構築で御尽力いただいた株式会社IIJ様の御支援をいただき、うまく連携しながら、最終的に事業者様のお話も伺い、アウトプットを出していきたいと思っております。ですので、フィールド調査の結果を取りまとめつつ、並行して、お話を伺わせていただくタイミングが3月になってくると思います。皆様方も年度末というところでお忙しいかと思いますが、この場をお借りして、改めて御協力いただきますようお願い申し上げます。よろしく願いいたします。

【伊東主査】

調査結果については、有効に活用できるような形で分析・考察していただければありがたいと思います。

先ほど落合構成員から御発言がございましたが、ローカル5Gに関しましては、ある意味でこれからの技術だと思いますので、定性的になるところもあるのかもしれませんが、こういったところで展開が期待できるのではないかとというようなまとめ方をしていただけると良いのかなと思われました。

事務局もその辺りお考えいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【落合構成員】

「衛星放送ワーキンググループ」においても、一種の代替を利用する手段として、衛星放送が検討されていると思っております。今回の調査の中では時間的に難しいと思っておりますので、そちらに触れることはないと思うのですが、調査結果や検討結果は、相互に親会を通じて結合するとは思いますが、連携しておいた方が色々な検討にとっては参考になるかと思われました。もし可能であれば、御検討いただければと思います。

【事務局（細野外資規制審査官）】

落合構成員のおっしゃるとおり、局内でも様々な会合を開いておりました、各会合での結果というのは適宜共有しながら、検討を行っていくことになろうかと思っております。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

【伊東主査】

前回会合において速報があった諸外国の調査では、地上テレビ放送の代替手法として、衛星放送、ケーブルテレビ、IPTVの3つが挙げられていました。本作業チームでは、その中のIPTVをメインにして、ケーブルテレビでの巻取りについても所掌しているものと存じます。さらに、その中にローカル5Gも入ってくるのかと思いますので、それぞれの得意分野がどういうところなのか、明確にしていく必要があるのかなと感じております。

(3) 閉会

- ・事務局（細野外資規制審査官）より、第18回会合は令和6年2月22日（木）17時00分からの開催を予定している旨、連絡があった。

（以上）